

# 体育の楽しさや喜びを味わい、運動に親しむ児童の育成

～体育や保健の見方・考え方を働かせる活動を通して～

荒尾市立中央小学校

## 1 はじめに

本校は昨年度までの7年間、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、全学年で「英語科」の研究実践を行ってきた。今年度からは教科こそ違えど、令和3年度・4年度の2年間、「学校体育研究推進校」として熊本県教育委員会の指定を受け、体育科を中心として研究実践を行っている。

研究の初年度ではあるが、今までの研究で培った土台に、体育の授業改善を軸とした実践を積み上げていき、学校総体として研究を推進してきた。体育科を中心とした研究の成果が他教科にも波及し、目ざす児童の姿へと迫っていくことを期待したい。

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 教育の今日的課題から

今日の社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化しており、予測困難な時代となっている。そうした中で、一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、質的豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。このような時代にあって、学校教育には児童が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決してく力がより求められていく。児童にとって、今後の人生を豊かに、たくましく生きていくためにも、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育むことはより大切になってくるであろう。その実現に向けて、学校教育における体育科の充実はますます重要な分野をしめることとなると考える。

### (2) 学習指導要領から

昨年度から全面実施されている小学校学習指導要領において体育科では「体育や保健の見方・考え方を働かせることを通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むことが大切である。」と示されている。これは、小学校体育科教育において、運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることに着目させ、自己の能力や適性等に応じて、運動との多様な関わり方について考えることを強調しているものである。このことから運動の価値や特性に着目し、楽しさや喜びを味わうとともに、仲間と関わりながら運動に親しむことができる児童を育てることを目指す本研究は意義深いと考える。

### (3) 本校教育目標から

本校の教育目標は『あいさつ、そうじ、発表 そして笑顔 一人ひとりを大切にする強くやさしい中央っ子の育成』である。人権尊重の視点に立った豊かな人間関係づくりを土台に、体育の楽しさや喜びを味わえ

るような授業づくりを進めていくことは、本校グランドデザインで重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力である「粘り強く学ぶ力」「他者を尊重する力」「自己表現できる力」の育成につながると考えられる。この資質・能力を高めていくことで、本校教育目標の具現化を図ることができると思う。

#### (4) 本校の体育における実態から

本校は、全校児童561人である。素直で明るい児童が多く、困っている友だちを見ると助けようとする温かみのある児童が多い。今年度行ったスポーツテストでは、県の平均値よりも低い傾向にあり、投力や持久力等に関しては特に課題のある状況である。運動に親しむ態度については、外遊び等活発な児童は多いものの、運動に苦手意識を持っている児童も一定数おり、粘り強く運動に取り組むことに課題がある。

また、本校の体育環境においては、学校の規模に対して、体育館や運動場の使える場や教材・教具等が不足しており、学級単位で授業を行うには制限の多い状況である。体育の授業に対する教師間の認識の差もあり、課題解決型の授業づくりを実践するにはいたっていない。体育科の研究を通して、授業改善を図ることにより、体育の楽しさや喜びを味わい、運動に親しむ児童が育成できると考えた。

### 3 研究主題・副題のとらえ方

#### (1) 「体育の喜びや楽しさを味わい、運動に親しむ」とは

運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習を通じた授業改善を図ることで、児童一人ひとりが体育の楽しさや喜び・健康の意義を見つけることができると考える。体育授業の充実を基盤とし、その楽しさや喜びを味わうことで、運動や健康についての興味や関心が高まり、より広い意味で運動に親しむ児童が育成できると考えた。運動に親しむことは、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につながるものだと考えられる。

#### (2) 「体育や保健の見方・考え方を働かせる活動」とは

体育の見方・考え方は、「運動やスポーツが、楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目するとともに、『すること』だけでなく、『みること』『支えること』『知ること』など、自己の適性に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えること」である。また、保健の見方・考え方は、「身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当ての原則及び、健康で安全な生活についての概念などに着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持促進と関係付けること」である。様々な学習過程の中に、単元構成の工夫や協働的な学習活動を仕組み、体育や保健の見方・考え方を働かせる活動をしていくことで、体育の楽しさや喜びを感じることができ、運動やスポーツに親しむ素地が育まれていくと考えられる。